

ハーバード大学世界文学研究所（IWL）
夏期集中セミナー東京大学セッション実施報告

2018年7月2日（月）～7月26日（木） 東京大学本郷キャンパス

ハーバード大学世界文学研究所（IWL）
夏期集中セミナー東京大学セッション実施報告

沼野 充義

はじめに——「あんなことがよくできた」と後になって思う

2018年の夏は現代文芸論研究室にとっても、また私個人にとって、大変な夏になった。デイヴィッド・ダムロッシュ David Damrosch 教授率いる、ハーバード大学の「世界文学研究所」Institute for World Literature（略称 IWL）のサマーセッションを現代文芸論研究室が引き受け、7月の4週間にわたって本郷キャンパスで実施したからである。参加者は世界約20カ国から集まった130人を超える若手研究者の他、10名のセミナー講師、そしてさらに多彩な国際的顔ぶれのゲスト講演者たち。実施・運営を担当したのは、主として現代文芸論研究室のスタッフと大学院生・学部生など、総勢20数名にのぼる。

その詳細については、以下に掲載する実施報告に譲るが、4週間にわたって集中的に行ったことの総体は、ゆうに一研究室のまるまる一学期分の仕事にも匹敵するだろう。大部分の参加者は日本語がまったくできず、日本に来るのも初めてである。そんな研究者たち百数十名を酷暑の東京で迎え、4週間にわたって快適に過ごしていただくために我々は全力を尽くしたが、これは想像以上に大変なことだった。しかし、報告にも記載した通り、じつに多くの人たちの熱心な協力が得られ、なんとか乗り切ることができた。関係したすべての皆様に心からお礼を申し上げたい。特に現代文芸論研究室の私の身近のスタッフや若手のアシスタント・院生・学生たちは、「酷使」されてしまったかもしれない。この機会を通じて得られた国際的学術交流の現場の経験が（それ自体はめったにない、かけがえのないものだろう）、せめて多少なりとも彼らの将来のキャリアにプラスになることを願うばかりである。

この機会に、今後の国際的学術活動に活かせるよう、今回特に強く感じたことをいくつか、初めに書き留めておきたい。

第一に、百数十人の外国人研究者が丸一月にわたって東京に滞在するとなると、真っ先に問題になるのは、宿舎の確保である。宿泊費は参加者の自己負担だが、皆若手の研究者（大半は大学院生）だから、一か月もホテルに泊まるわけにはいかない。IWLは夏休み期間中に行われるため、欧米の大学で行う場合は夏休みで空いた大学の寮を比較的安価に使うことも期待できるが（とはいえ、これまで実際には欧米でも宿舎の確保はそう容易ではなかったようだ）、東大は残念ながら寮や外国人用宿舎に、一時的なイベントで来日する外国人研究者のために割り当てる部屋の余裕はまったくない。そこで東京大学の理事・副学長で国際本部長を務められていた羽田正先生に相談し、東京大学ハウジング・オフィスに協力をお願いできることになった。ハウジング・オフィスの佐藤牧雄さんには筆舌に尽くしがたいほどお世話になった。佐藤さんには、4週間で宿

泊費 10 万円以内、という難しい条件をクリアするため、東大からそれほど遠くない地域でシェアハウスなどを探すことで多大な尽力をさせていただいたのである。

第二に、IWLのセミナー、コロキウム、全体講義や特別イベントなどのために必要な教室の確保もじつは大変難しいことだった。IWLでは集中的にいくつもの（今回の東京大学セッションでは5つの）セミナーが、同時に毎日月曜から木曜日まで行われる。東大文学部では普段から教室が不足気味で、平常の授業計画作成のためにも苦労しているのくらいだから、IWLの集中的な活動のために快適に使える（AV設備やプロジェクターなども完備した）セミナー室の確保は至難の業だった。これが夏休み期間中だったら教室確保にはまったく問題はないのだが、学事暦の違いから、欧米がすでに夏休み期間にはいった時期でも、日本ではまだ授業期間中である。教室確保は容易ではない。

幸い、関係各位の協力を得ていくつかの部屋をかき集め、さらには東洋文化研究所の会議室まで中島博隆教授のご厚意で借用して、必要な数の部屋を確保することができた。とはいえ使用できた部屋は、設備、広さなどの面では決して理想的とはいえなかったうえ、互いにかなり離れた4つの違う建物に分散したため、スタッフやセミナーリーダー、そして参加者たちにかんがりの不便を強いる結果になった。

第三に、異常な酷暑。このところ地球温暖化の影響なのか、東京の夏の暑さは年々耐え難くなる一方だが、よりによって2018年の7月の暑さは前代未聞のものだった（個人的な思い出だが、2015年の8月初旬に幕張で1300人の研究者を世界中から集めて、I C C E E S（国際中欧・東欧研究協議会）世界大会を行ったときも、幕張は記録的な暑さを記録した。よくよく暑さには悩まされる宿命なのか）。ウィキペディアにも「2018年の猛暑」という項目が作られているほどで、IWL会期の7月2日から26日の記録を見ると最高気温が30度を下回ったのは3日だけ、後の日々は大部分が最高気温35度前後で、雨も降らず、教室移動のためちょっとキャンパスを歩いただけでもくらくらするほど強い日差しだった。このような暑さに慣れていない欧米からの参加者が熱中症で倒れるのではないかと危惧して、経口補水液や保冷剤を大量に買ったほどである（幸い、軽度の熱中症と思われるケースが一つだけあったが、それ以上深刻なケースはなかった）。2020年の東京オリンピックのときはどうなるのか、と改めて不安になる。個人的には酷暑の夏にこのような大規模国際会議等を行うのは極力避けるべきだと思う。ましてオリンピックを行うなど正気の沙汰ではない。

ここまで挙げてきた第一から第三の問題は、IWLの内容そのものに関わることではないが、今後の国際的な学術交流活動推進のためには避けて通れない悩ましい問題である。ここでさらにもう一つ、学問的にはより重要で本質的な問題を挙げておきたい。それは英語の問題である。IWLは世界の様々な地域から、様々な専門分野を持つ研究者たちが集まって集中的に討論を行う。大部分の参加者にとって英語は母語ではないが、共通語として使わざるを得ない。セミナーも特別講義もディスカッションも、すべて英語になる。

このこと自体は、英語が事実上、自然科学だけでなく、人文社会科学でも世界の共通語になっている現状からみて、しかたないことだろう。実際、フランス文学とロシア文学と日本文学の専門家が一緒になって共通の文学上の問題を討議しようと思ったら、英語以外の言語を使うことは

(通訳を入れるならば別だが)、現実的には考えられない。実際、IWLに集まってくる参加者たちの英語運用能力は、かなり高いのである。セルビア人であろうと、トルコ人であろうと、中国人であろうと、英語の議論をきちんと理解したうえで、積極的に発言し、コミュニケーションを十分に成り立たせている。ところが残念ながら日本人の参加者は必ずしもそうではなく、皆が活発な議論をしているところで発言すること自体稀である。英語をどうすべきなのか？ いまさらながらだが、これはIWLに限ったことでなく、日本の人文研究が今後国際的にもっと開かれてくための課題であろう。

国際的に著名な学者ぞろいのIWLセミナーリーダーたちと話していても、英語によって作られる、国際的なコミュニティから日本の研究者が疎外されているという感を強めた。例えば、何かについて話しているとき、「そのことなら日本の誰それという研究者がかなりいい本を書いていますよ」と、私が(多少は持ち合わせている愛国心に駆られて)口を挟むと、すぐに返ってくるのは「その本は英語で書かれているのか」「英訳されているのか」といった質問であり、「ノー」と私が答えるとそこで会話は終わってしまう。日本語で書かれた本などあたかも、国際的な学問の世界には存在しないかのように。

ただし、誤解のないよう、最後に強調しておきたいのだが、「日本人は英語が下手だから、もっと話せるようにならなければいけない」とか、「日本人の人文系研究者も、日本語で研究書を書いているだけでは国際的に意味がないから、もっと英語で書かなければならない」など単純な(それ自体いくら主張しても事態が変わるとも思えない念仏のような)ことをここでことさらに言いたいわけではない。私自身は英語が国際語として圧倒的な優位にあるという現実を認めたくて(だから英語ができたほうがいいに決まっている)、英語を母語としない様々なバックグラウンドの人たちが集まって議論し、直接意見交換するためにはコミュニケーションをどうしたらいいか、そして英語だけを当然のように共通語と見なしていればいいのか、考え続けなければならないと強く主張したい。少し分かりにくいかもしれないが、「英語だけでいいのか、と常に批判的な精神を保ちながら、英語を使うコミュニティに参加し続ける」という態度が必要ではないか、ということだ。

英語はもちろん無色透明な道具ではない。それは権力であり、政治であり、経済でもある。じゃあ、英語をやめて、日本語を共通語として使うような国際的人文学の議論の場が作れるだろうか？ そう簡単には作れるとは思えないが、日本語がすでにそのポテンシャルを蓄えていることも否定できないだろう。たまには日本語で世界文学を討議する国際会議があってもいいのではないか？あるいは、参加者全員に自分の母語以外で話すという条件を課す会議方式はどうだろうか？ そうすれば英語の母語話者と英語を母語としない者が、対等に議論できるのだが……などと、あれこれ思うことは多く(実現可能性がどれも低いとしても)、そういったことを改めて意識化できたのも、IWL経験の一つの成果であったとは言えるだろう。

いずれにせよ、すでに半年以上前のこととなった(それでも気持ちの整理がなかなかできないが)IWLの東大セッションを振り返ってみると、あんなことがよくできた、というのが実感である。「あんなこと」を一緒に成し遂げた仲間たちとは、それだけ深く知り合い、親しくなれたという気がする。ここで言う仲間たちというのは実施を担当した現代文芸論のスタッフやアシス

タントだけでなく、外国からの IWL 公式参加者たちも含む。不思議なことに、暑さに疲弊し疲れ切った顔はあまり浮かんでこない。怒濤のような——とあえて陳腐な形容を使うが、本当にそれ以外の形容が思い浮かばないのだ——4 週間を通して、時折輝いた笑顔の数々が心に刻まれている。



IWL 参加者・講師たち 2018 年 7 月 3 日 東京大学総合図書館の前で
撮影：五月女颯

The Institute for World Literature

8th annual Session

The University of Tokyo

2 July – 26 July 2018



Following our sessions in Beijing (2011), Istanbul (2012), Harvard (2013), Hong Kong (2014), Lisbon (2015), Harvard (2016), and Copenhagen (2017), the Institute invites you once again for a four-week session of seminars and lectures on the theory and practice of world literature, hosted by Professor Mitsuyoshi Numano at the University of Tokyo's beautiful Hongo campus. Directed by David Damrosch, the Institute is supported by Harvard and by five dozen institutional affiliates from around the world, guided by an international board of advisers.

Our 2018 session will offer seminars and lectures presented by leading scholars of world literature studies today:

Christopher Bush, Northwestern University
Pheng Cheah, University of California at Berkeley
David Damrosch, Harvard University
Wiebke Denecke, Boston University
Ursula Heise, UCLA
Mitsuyoshi Numano, University of Tokyo
Katharina Piechocki, Harvard University
Jing Tsu, Yale University
Delia Ungureanu, University of Bucharest
Zhang Longxi, City University of Hong Kong



Online application

<http://iwl.fas.harvard.edu/pages/online-application>

ハーバード大学世界文学研究所 (IWL)
夏期集中セミナー東京大学セッション
実施報告

2019年3月12日

実施責任者 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部
現代文芸論研究室 教授 沼野充義

名称 ハーバード大学世界文学研究所夏期集中セミナー東京大学セッション

主催者

ハーバード大学世界文学研究所 (Institute for World Literature, Harvard University)

所長 David Damrosch 教授

所長補佐 Delia Ungureanu 博士 (ブカレスト大学助教授)

公式ホームページ <https://iwl.fas.harvard.edu/>

共催・東京大学実施責任者

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部現代文芸論研究室

教授 沼野充義

実施期間 会期 2018年7月2日(月)～7月26日(木)

参加者到着日7月1日(日)、出発日7月27日(金)

実施場所 東京大学本郷キャンパス 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

実施本部 IWL2018 東大事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 文学部3号館8階現代文芸論研究室内

電話・ファックス 03-5841-7955

メール iwl2018@l.u-tokyo.ac.jp および iwl2018tokyo@gmail.com

事務局の構成

事務局長 沼野充義 (教授)、事務局長補佐 高橋知之 (助教)

事務局コーディネーター 島袋里美

事務局常任メンバー

柳原孝敦 (教授・現代文芸論専修課程主任)、阿部賢一 (准教授、現代文芸論大学院専門分野主任)、平野恵美子 (助教・スラヴ語スラヴ文学研究室)、小澤裕之 (事務補佐・現代文芸論研究室)

事務局スタッフ 福間恵、山田絵里奈、今井亮一

シニア・アシスタント Manuel Azuaje Alamo (チーフ・コーディネーター)、Ussen Botagoz、左山晶大

公式カメラマン 五月女颯

動画撮影 ソンヘジョン

院生・学生アシスタント 池島香輝、岩佐頌子、鈴木愛美、須藤輝彦、竹山俊龍、土屋優、杜玉、豊島美波、永森和子、ニーナ・ハビャン、安原瑛治、山田美雪

協力

東京大学ハウジングオフィス (宿舎確保協力 佐藤牧雄)

東京大学東洋文化研究所 (セミナー・会議室提供 中島隆博教授)

東京大学人文社会系研究科

スラヴ語スラヴ文学研究室 (セミナー室・個別面談室提供)

情報メディア室 (Wi-fi 環境整備 西川賀樹講師)

視聴覚教育センター (ビデオ撮影、AV機材 石川洋講師、菅家健一特任専門職員)

文学部図書室・総合図書館 (図書館ツアーの実施、参加者の図書館使用)

東京観光財団・文京区 (英文観光ガイド・マップ提供)

*特にお世話になった方には個人名を挙げさせていただきました (敬称略)。ここにお名前を挙げていない、その他多くの協力してくださった皆様に感謝いたします。

世界文学研究所夏期集中セミナー (IWL) とは?—趣旨と概要

世界文学研究所 (Institute for World Literature, 略称 IWL) は、『世界文学とは何か?』の著者として知られるハーバード大学比較文学科の教授、デイヴィッド・ダムロッシュ David Damrosch 氏が中心となって運営する研究教育組織であり、世界の文学を一国一言語に限定せず、広い視野から多角的に研究することを目的とする。

IWL は毎年夏、世界各地の大学において夏期集中セミナーを行ってきた。この集中セミナーには、大学院生から博士号を既に取得した若手研究者、若手・中堅の大学教員に至るまで、世界 20~30 カ国から 100 名~150 名の研究者が集まり、4 週間にわたって集中的にセミナーおよび研究発表会などを行う。参加者の母語や専攻分野を問わずセミナー、コロキウム (研究発表会)、講義、特別イベントなどすべてが英語で行われる。

活動の中心となるのはセミナーとコロキウムだが、その他に、著名な作家・文学研究者による記念講演やシンポジウムも夕刻または週末に開催される。文化的・言語的バックグラウンドを異にする若手文学研究者が世界からこれほど多く集まり、狭い意味での専門分野を超えて文学研究への様々なアプローチについて集中的に議論する場は他に類例がほとんどなく、その意味では IWL のサマーセッションは現代の世界文学研究を推進する有力な原動力になっていると言っても過言ではない。

IWLの過去の開催場所・実績

これまで IWL は毎年夏、世界各地の大学が持ち回りでホスト校を引き受けてきた。

- 第1回 2011年 北京大学
- 第2回 2012年 イスタンブル・ビルギ大学
- 第3回 2013年 ハーバード大学
- 第4回 2014年 香港城市大学
- 第5回 2015年 リスボン大学
- 第6回 2016年 ハーバード大学
- 第7回 2017年 コペンハーゲン大学
- 第8回 2018年 東京大学
- 第9回 2019年 ハーバード大学（予定）

参加者数はこれまでの実績で、毎年 20～30カ国、100名～150名程度。

2018年度東京大学セッション実施概要

- ・事務局・実施本部は、東京大学文学部3号館8階現代文芸論研究室に置く。
- ・期間 2018年7月2日（月）～7月26日（木）
- ・参加者の宿舎 東京大学では残念ながら大学が持つ寮などの宿泊施設を提供できないため、IWL 2018 東大事務局は東京大学ハウジングオフィスの協力を得て、都内・近郊に一定数のシェアハウスや安価なホテルの部屋を確保し、斡旋を行った。その結果、参加者の過半数はこれらのシェアハウスなど何カ所かに分散して入居した。ただし、事務局が提供した住居情報を参考にし、宿を自分で確保した参加者も少なくない。
- ・実施場所 東京大学本郷キャンパス 〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
本郷キャンパス内の教室・会議室・ホールなどを使った（法文1号館、法文2号館、文学部3号館、東洋文化研究所、赤門総合研究棟、福武ホールなど）。
- ・参加者数 132名、世界約20カ国より。うち日本人参加者は13名——東京大学大学院生12名（内訳：人文社会系研究科10名、総合文化研究科1名、情報学環1名）。通常は一校から2名程度の参加者枠があるが、東大は実施校特別枠により12名の参加を認めた。東大からの参加者は、1800ドルの参加費用を全額免除された。
- ・海外からの参加者のうちビザ・サポートを必要とする中国人10名には沼野充義が招聘責任者となり、必要書類を作成してENSで送付し、短期商用等の入国ビザが取得できるようにした。

実施内容・基本的カリキュラム

- ・特定の一カ国の文学は扱わず、世界の諸文学研究の様々な局面について、専門分野を問わず、4週間を通してすべて英語で討論を行う。
- ・単位が与えられるいわゆるサマースクールではないが、参加者にはクロージング・セッションで、ダムロッシュ所長および沼野東大実施責任者の署名入りの参加証書が授与された。

・セミナー——前半2週間に5つ、後半2週間にさらに5つ、計10のセミナーを行う。参加者は前半・後半それぞれ必ず一つのセミナーに参加する。各セミナーは、予め用意・印刷された必読文献（英語で400～600ページ程度）に基づいて、月～木まで毎日2時間、討論を中心に行われる。

・個別面談——各セミナー講師は、週に3時間、office hours を設け、参加者との個別面談・個別研究指導を行った。

・コロキウム——参加者を専門的関心に応じて10の小グループ（一グループにつき13～14名）に分け、それぞれ毎週集まって、研究発表を行い、討論する。全員が必ず一度報告を行う。

・全体講義・パネルなど——上記セミナー・コロキウムに加えて、全員を対象とした plenary lectures や、panel discussion を週に1～2回程度、夕刻に以下の通り行ったり。

Damrosch と Pheng Chea の対論、Heise, Jing Tsu による講義、job market をめぐるパネル、学術成果出版をめぐる panel

・特別ゲスト講演・パフォーマンス等——平日夕刻または週末。ゲスト講演者 Chang Young-hae Heavy Industries (Chang Young-hae and Marc Voge)、多和田葉子、柴田元幸、平野啓一郎、川上未映子、小野正嗣、管啓次郎、Michael Redmond 他。

・学内ガイド・レセプション・エクスカージョンなど——参加者のためには、学内ツアー、図書館ツアーをオリエンテーションの一環として実施した他、7月6日には浜離宮～浅草のエクスカージョン、7月13日には不忍池～東京国立博物館訪問のエクスカージョンを行った。また7月20日には有志を対象として歌舞伎鑑賞を行った（コーディネーター平野恵美子・スラヴ語スラヴ文学研究室助教）。

・初日（7月2日）夜には、学内のレストラン、カポ・ペリカーノでオープニング・パーティ、最終日（7月26日）には東京湾ディナークルーズ船上でクロージング・ディナーを催した。

・参加者のインターネットへの接続——Eduroam のみ。アクセスポイントを IWL のために文学部情報メディア室が増設。

・参加者への配布物——以下のものをトートバッグに入れてレジストレーション時に配布。印刷版冊子プログラム、印刷版コースパック（必読文献集、セミナー別に10種）、オリジナルデザインTシャツ、オリジナルデザイン・トートバッグ、ネームタグ（図書館入館用バーコード付き）、東大マーク入りノート・ボールペン・クリアファイル、文学部カレンダー、東京大学本郷地区キャンパスガイドマップ、東京観光財団および文京区提供による英文観光ガイド・マップ類各種。

また修了式の際、参加証書を授与した他、集合写真（7月3日撮影）を全員に配布した。

・熱中症対策——会期中、未曾有の酷暑が続いたため、熱中症対策情報を周知し、救護体制を作った。また、経口補水液や保冷シートを現代文芸論研究室に用意し、無償で配布した。

セミナーリーダー（客員教授）とテーマ・教室

July 2-12 (前半) 月～木 毎日 14: 55-16: 40

Christopher Bush (Northwestern University), "The Avant-Gardes in the World" スラヴ語スラヴ文学
演習室

Pheng Cheah (University of California at Berkeley), "World Literature and Cosmopolitanism in
Postcolonial Globalization" 赤門総合棟第 8 演習室

David Damrosch (Harvard University), "Globalization and Its Discontents" 赤門総合研究棟第 7 演
習室

Mitsuyoshi Numano (University of Tokyo), "Somewhere in Between: Boundaries, Resonances, and
Interactions in Time and Space" 東洋文化研究所大会議室

Jing Tsu (Yale University), "Multi-Scale Literary Studies" 現代文芸論研究室

July 16-26 (後半) 月～木 毎日 14: 55-16: 40

David Damrosch (Harvard University), "Globalization and Its Discontents" (前半と同じ内容) 赤門
総合研究棟第 8 演習室

Katharina Piechocki (Harvard University), "Rethinking World Literature through Cartography and the
Spatial Turn") 現代文芸論演習室

Ursula Heise (UCLA), "Science Fiction and the Imagination of Planetary Futures" 東洋文化研究所
大会議室

Delia Ungureanu (University of Bucharest), "Localizing Time in World Literature and World Cinema"
赤門総合棟第 7 演習室

Zhang Longxi (City University of Hong Kong), "From Comparison to World Literature: Readings and
Conceptual Issues" スラヴ語スラヴ文学演習室

ゲストによる特別講演・文学イベント

7月4日(水) 17:00-19:00 福武ホール (B 2 福武ラーニングシアター)

Young-Hae Chang Heavy Industries (ソウル在住の二人組ウェブアーティスト)

7月7日(土) 2:00 – 3:30pm. 法文 1 号館 214 番教室

Michael Redmond 日本在住のプロ棋士 (9 段) "The game of Go and Japanese Culture and
Literature"

7月12日(木) 17:00-19:00 文学部 3 番大教室

柴田元幸 (東京大学名誉教授、英米文学研究者・翻訳家) "The Task of the Translator in Japan"

7月14日(土) 17:00-19:00 文学部 1 番大教室

管啓次郎 (モデレーター) 詩の朗読と音楽の夕べ Voices are Flowers: An Evening of
Multilingual Poetry Readings and Music

Moderator: Suga Keijiro (Meiji University Professor, Poet and Translator)

Attending poets: Maki Nakano, Jordan Smith, Yuki Nagae, Irma Osno, Mohammed Oudaimah

・ I W L 参加者有志も詩を朗読

7月19日(木) 17:00-19:00 福武ホール (B2 福武ラーニングシアター)
多和田葉子(日独バイリンガル作家・詩人) "A Dream of Multilingual Poetry"

Moderator: Doug Slaymaker(University of Knetucky)

7月20日(金) 18:30-20:30 福武ホール (B2 福武ラーニングシアター)

New Japanese Voices: An Evening of Reading and Discussion with Japan's Leading Young Novelists

Moderators: Waseda U. professors David Karajima and Yoshio Hitomi

Guests: 川上未映子、小野正嗣、平野啓一郎

主な行事日程(時系列)

*詳細は後掲の月間スケジュール表を参照。

*セミナーおよびコロキウムはここには初回のみ記載。

*セミナーリーダーによるオフィスアワー(各客員教授週3時間程度)は別途予定表を作成して、文学部3号館8階現代文芸論研究室およびスラヴ文学研究室において実施した。

7月1日(日) 参加者到着日

7月2日(月)

10:00-12:00 レジストレーション

12:00-12:30 キャンパスツアー(3班に分かれて30分おきに出発)

14:55-16:40 初回セミナー(以後、セミナーは月~木毎日、同じ時間帯で7月26日まで)

17:00-19:00 開会式・David Damrosch 所長全体講義(文学部1番大教室)

19:30-21:30 学内イタリアンレストラン「カポペリカーノ」でオープニング・レセプション

7月3日(火)

10:25-12:10 初回コロキウム(以後、コロキウムは第3週まで火・木、第4週のみ月・火の同じ時間帯に行う)

17:00 全員の集合写真撮影(東京大学総合図書館前)

7月3日~5日にかけて

10のコロキウム・グループ別に図書館ガイダンス(東京大学総合図書館および文学部図書館)
文学部3号館入り口集合、所要時間は約1時間

7月3日(火) 13:00 グループ1,2

7月4日(水) 10:00 グループ3,4

11:00 グループ5,6

13:00 グループ7,8

7月5日(木) 13:00 グループ9,10

7月4日(水)

17:00-19:00 Young-Hae Chang Heavy Industries 特別講演・プレゼンテーション 福武ホール

7月6日(金)

*ダムロッシュ前期セミナー5回目ミーティング(変則) 10:00-14:45

エクスカージョン1: "Welcome to Tokyo" Outing 浜離宮~隅田川水上バス~浅草

3班に分かれて出発(各班最大45名) 赤門前集合

① 12:50 コンダクター Azuaje Alamo + 1

② 13:10 Ussen Botagoz + 1

③ 13:45 左山晶大+ 1

7月7日(土)

14:00-15:30 法文1号館214 Michael Redmond 囲碁に関する講演

7月9日(月)

*ダムロッシュ前期セミナー6回目(変則) 10:00-11:45, 7回目 14:55-16:40

17:00-19:00 全体講義 Jin Tsu 教授 文学部1番大教室

7月12日(木)

17:00-19:00 特別講演 柴田元幸東大名誉教授 文学部3番大教室

7月13日(金)

エクスカージョン2: Museum Outing 東大本郷キャンパス~不忍池・上野散策~東京国立博物館見学 赤門前集合 3班に分かれて出発

① 出発 13:00

② 出発 13:20

③ 出発 13:40

7月14日(土)

17:00-19:00 「多言語詩朗読と音楽」モデレーター: 管啓次郎、文学部1番大教室

7月16日(月)

17:00-19:00 研究成果の刊行に関するパネルディスカッション 文学部1番大教室

7月19日(木)

17:00-19:00 特別ゲスト講演・朗読: 多和田葉子 福武ホール

7月20日(金)

10:00- 歌舞伎鑑賞(東銀座歌舞伎座、有志のみ) コーディネーター: 平野恵美子

7月20日(金)

18:30-20:30 「New Japanese Voices」若手小説家たち ゲスト: 川上未映子、小野正嗣、平野啓一郎 福武ホール

7月23日(月)

17:00-19:00 全体講義 Urusula Heise 教授 文学部1番大教室

7月25日(水)

17:00-19:00 ジョブマーケット(研究職就職状況)に関するパネルディスカッション 文学部2番大教室

7月26日(木)

16:50-17:30 クロージング・セッション 3番大教室

19:10-21:30 (クロージング・ディナー (東京湾クルーズ シーライン東京 シンフォニー・モ
デルナ) 18:40 までに日の出棧橋専用乗船場に集合
7月27日(金) 参加者出発日

		7/9 (月)	7/10 (火)	7/11 (水)	7/12 (木)	7/13 (金)	7/14 (土)
	2限 10:25- 12:10	(婆則) Damrosch セミ ナー⑧赤門第7演習室 10:00-11:45	コロキアム1～5 第2 回 (13～14名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第1会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室		コロキアム6～10 第2 回 (13～14名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第2会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室		
第2週	4限 14:55- 16:40	セミナー1～5 第5回 (25～30名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研大会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室	セミナー1～5 第6回 (25～30名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研大会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室 * (4) Damrosch 今日終了。	セミナー1～5 第7 回 (25～30名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研大会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室	セミナー1～5 第8回 (25～30名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研大会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室	エクスカーション② "Museum Outing" 赤門集合 13:00, 13:20. 13:40 東大本郷キャンパス～ 不忍池・上野散策～東 京国立博物館見学	
	5限 16:50- 18:35	全体講義2 Katharina Piechocki 大教室 (140名) 文学部1番大教室			ゲスト講演2 柴田元幸 (140名十一般公 開) 文学部3番大教室		特別文学イベント1 マールチリンガル・ボエ トリリーデス 菅啓次郎とゲスト詩人た ち 1番大教室 17:00- 19:00

	7/16 (月)	7/17 (火)	7/18 (水)	7/19 (木)	7/20 (金)
	2限 10:25- 12:10	コロキアム1～5 第3回 (13～14名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第1会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室	セミナー6～10 第3回 (25～30名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第1会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室	コロキアム6～10 第3回 (13～14名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第2会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室	
	4限 14:55- 16:40	セミナー6～10 第2回 (25～30名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第1会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室	セミナー6～10 第3回 (25～30名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第1会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室	セミナー6～10 第4回 (25～30名) 5室 (1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第2会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室	
第3週	5限 16:50- 18:35	出版パネル 大教室 (140名) 文学部1番大教室		ゲスト講演3 多和田葉子 福武ホール (184名)	特別文学イベント2 「日本文学の最前線」 ズイヴァインツト辛島、由 尾瞳(司会)、平野啓 一朗、小野正嗣、川上 未映子 18:30-20:30 福武ホール

		7/23 (月)	7/24 (火)	7/25 (水)	7/26 (木)
	2限 10:25- 12:10	<p>コロシアム1～5 第4回 (13～14名) 5室</p> <p>(1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第1会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室</p>	<p>コロシアム6～10 第4回 (13～14名) 5室</p> <p>(1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研第2会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室</p>		
第4週	4限 14:55- 16:40	<p>セミナー6～10 第5回 (25～30名) 5室</p> <p>(1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研大会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室</p>	<p>セミナー6～10 第6回 (25～30名) 5室</p> <p>(1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研大会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室</p>	<p>セミナー6～10 第7回 (25～30名) 5室</p> <p>(1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研大会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室</p>	<p>セミナー6～10 第8回 (25～30名) 5室</p> <p>(1) 現文演習室 (2) スラヴ演習室 (3) 東文研大会議室 (4) 赤門第7演習室 (5) 赤門第8演習室</p>
	5限 16:50- 18:35	<p>全体講義3 Ursula Heise 文学部1番大教室 (140名)</p>		<p>ジョアマーケット・ハネル 文学部2番大教室(140名)</p>	<p>クローゼンゲ・ハネル 文学部3番大教室 (140名) 16:50-17:30</p>
					<p>19:00- クローゼンゲ・デイナー (東京湾シンフォニー・クルーズ大宴会室貸切) 日の出棧橋出航</p>